

The EBARA

報告書 | 2020年1月1日 — 2020年12月31日

巻頭
特集

将来の社会ニーズを捉える
新規事業への取組みを知る

Looking ahead, going beyond expectations
Ahead  *Beyond*

目次

- 01 イントロダクション
- 03 巻頭特集
将来の社会ニーズを捉える
新規事業への取組みを知る



- 05 トップメッセージ



- 07 セグメント情報



- 09 海外展開
- 10 トピックス



- 11 ステークホルダーとの関わり
- 13 財務情報
- 14 企業情報

詳しい業績情報は
当社WEBサイトへ



<https://www.ebara.co.jp/about/ir/index.html>

創業の精神「熱と誠」



与えられた仕事をただこなすのではなく、自ら創意工夫する熱意で取り組み、誠心誠意これをやり遂げる心をもって仕事をする。そして、何事も熱意と誠心をもって人に接すれば、相手に通じないことはない。

企業理念

水と空気と環境の分野で、優れた技術と最良のサービスを提供することにより、広く社会に貢献する。

ブランドステートメント

Looking ahead,
going beyond expectations

Ahead Beyond

業界を牽引するリーディングカンパニーとして、期待や想像を超える製品やソリューションをご提供していきます。また、「Ahead,Beyond」には、決して現状に満足することなく、常に更なる高みを目指し挑戦し続ける当社の企業精神も込められています。

IRメール配信サービスのご案内

当社では、最新のIR情報を電子メールでお知らせするIRメール配信サービスを行っています。是非ご登録ください。



https://www.ebara.co.jp/about/ir/ir_mail/index.html

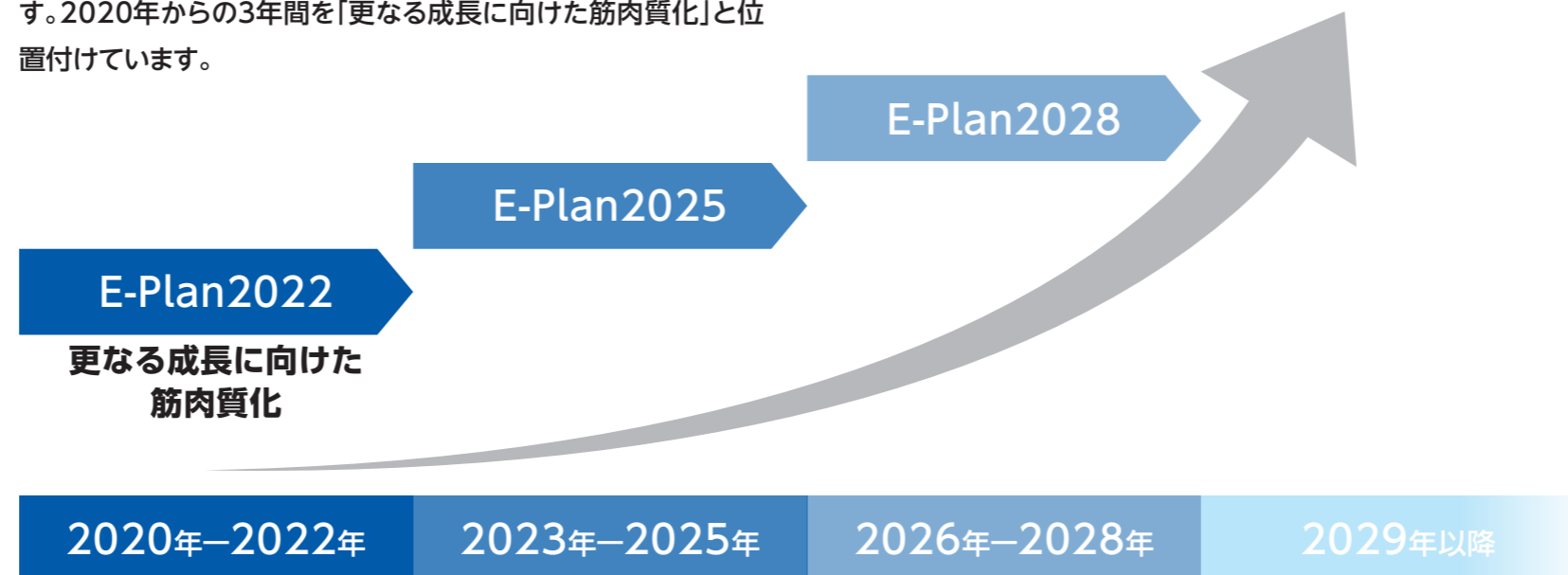
中期経営計画「E-Plan2022」

更なる成長に向けた筋肉質化

中期経営計画「E-Plan2022」は、長期ビジョン「E-Vision2030」で示した荏原グループの進むべき方向性に対して、バックキャストして今後3年間で取り組むべき経営の方針や戦略を表すものです。2020年からの3年間で「更なる成長に向けた筋肉質化」と位置付けています。

E-Vision2030

技術で、熱く、世界を支える



E-Plan2022 基本方針

1 事業成長への挑戦

新事業の開拓・創出や既存事業におけるグローバル市場への更なる展開

2 既存事業の収益性改善

収益基盤強化のための事業構造の変革と全事業でのサービス&サポート売上高の伸長

3 経営・事業インフラの高度化

デジタルトランスフォーメーション(DX)への積極的な取り組み等による経営のスピードアップ、ROIC経営の深化

4 ESG経営の進化

変化する環境問題への取り組み、社会とのつながり及びガバナンスの強化

E-Plan2022 達成すべき目標

①最重要経営指標(KPI)

項目	E-Plan2022 目標	
	(旧)日本基準	(新)IFRS基準
投下資本利益率(ROIC)	8.0%以上	7.6%以上
売上高営業利益率	8.5%以上	8.5%以上

②目標を達成するためのモニタリング指標

項目	E-Plan2022 目標	
	(旧)日本基準	(新)IFRS基準
自己資本利益率(ROE)	11.0%以上	11.2%以上
D/Eレシオ	0.3~0.5倍	0.4~0.6倍
(事業別営業利益率)		
風水力事業	7.0%以上	7.0%以上
ポンプ事業	6.5%以上	6.5%以上
コンプレッサ・タービン事業	8.0%以上	8.0%以上
冷熱事業	5.0%以上	5.0%以上
環境プラント事業	9.5%以上	9.5%以上
精密・電子事業	13.0%以上	13.0%以上

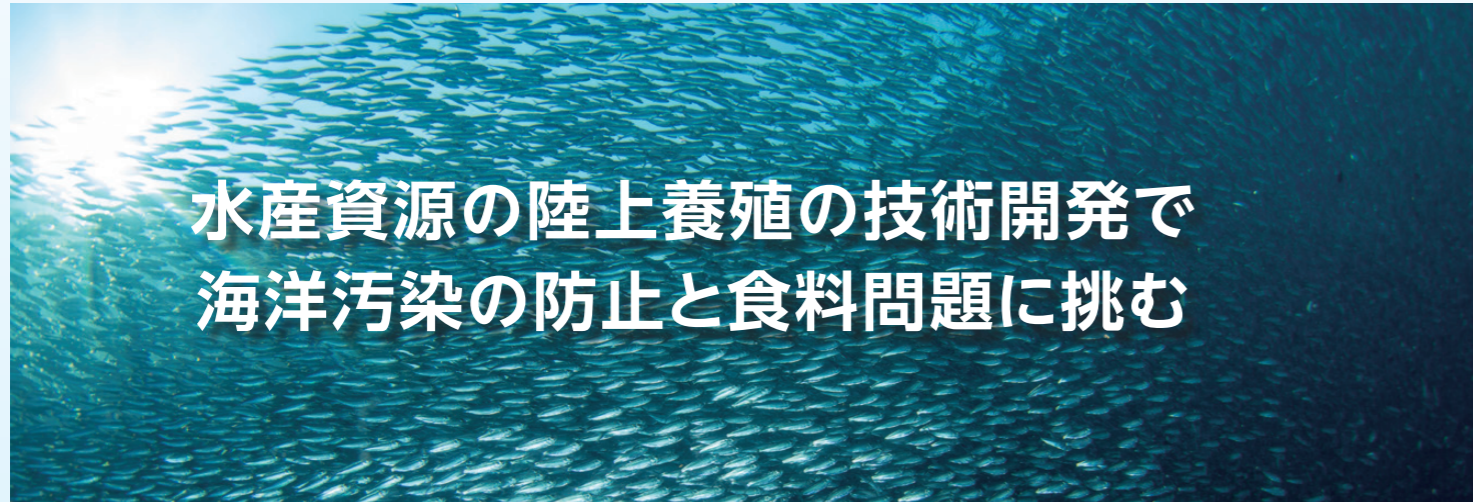
※2021年2月12日開催の取締役会において、当社グループの連結財務諸表及び連結計算書類について、従来の日本基準に替えて、国際財務報告基準(IFRS)を任意適用することを決議しました。IFRS移行に伴い、E-Plan2022の目標値が上記のとおり変更となっています。

将来の社会ニーズを捉える 新規事業への

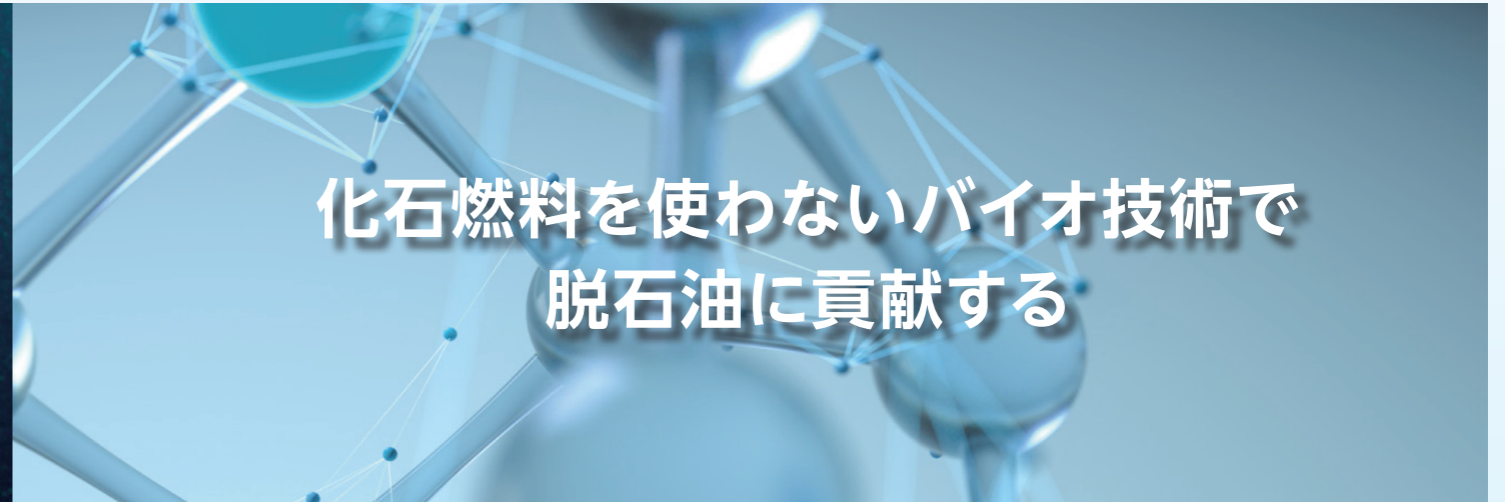
荏原グループは、2030年に向けて事業ポートフォリオを最適化し、企業価値を最大化する市場インの視点で新たな事業を開発し、荏原ならではの強みを活かした新規事業開拓の概要と、「食」と「脱石油」に関わる分野での取組みをご紹介します。

取組みを知る

させていくことを事業戦略の方針に掲げています。今後の世界の展望を基にした課題認識とグローバルにマテリアリティ解決に寄与することで、更なる企業価値の向上を目指しています。この特集では、



水産資源の陸上養殖の技術開発で海洋汚染の防止と食料問題に挑む



化石燃料を使わないバイオ技術で脱石油に貢献する

プロジェクトの立ち上げと大学発ベンチャー企業との業務提携

- 水産資源の世界的な需要増加と、養殖ビジネスの拡大に伴う従来型の海面養殖による水域汚染が問題化している背景に着目し、陸上養殖事業推進プロジェクトを立ち上げました。
- 地球環境に負担が少なく、外部環境に左右されない安定した品質と量が供給可能な養殖システムの実現を目指します。

E-Vision2030重要課題	持続可能な社会づくりへの貢献	
パートナー	リージョナルフィッシュ株式会社 (2020年6月 資本業務提携)	
ターゲットとする陸上養殖事業	閉鎖循環式陸上養殖	
荏原の活用技術	創業以来培ってきた流体・熱制御などの技術を活かした陸上養殖の省力化・自動化及び生産性向上に関わる開発を進める	流体技術や冷熱技術、ごみ処理施設の廃熱などを活用

脱石油材料分野のパイオニアとの業務提携

2020年1月にSpiber株式会社(以下、Spiber社)に総額10億円の出資をし、「脱石油」を支えるバイオ技術の共同開発を行っています。Spiber社は主原料を石油などの枯渇資源に依存しない、持続可能な次世代の基幹材料として期待される構造タンパク質を開発・製造しています。

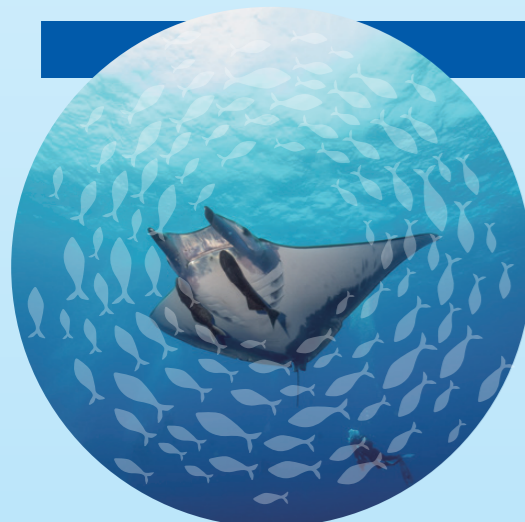
現在、Spiber社とともに、構造タンパク質によって生成される素材の量産化と製造工程におけるコスト削減の課題に取り組み、この課題を突破するために、当社グループの技術を活かして製造プロセスの効率化を図っています。また、当社製品の代替素材・添加材として、構造タンパク質素材を活用し、製品の機能向上にも取り組んでいます。

今後の事業展開

脱石油に貢献するためには、構造タンパク質によって様々な素材を生み出すバイオテクノロジーを世界に普及させていく必要がありますが、製造過程におけるコストの高さが実用化における大きな障壁となっているため、まずはそれを解決することを喫緊の課題として取り組んでいます。一方で、Spiber社とともに構造タンパク質の培養に関する知見を高め、今まで当社が踏み込んだことのない分野であるバイオテクノロジー業界でもビジネスの種が芽生えています。新たな知見とこれまで培った知見を活かし、新領域においても製造プロセスの革新やソリューションの提案を行っていきたく考えています。

今後の事業展開

荏原が創業以来培ってきた流体・熱制御などの技術を応用し、地球環境に負担が少なく、病原体などの侵入の恐れがない安全・安心で、安定した品質と量が供給可能な養殖システムの実現を目指します。それにより、陸上養殖の産業化と海の保護に貢献できるよう、事業を進めていきます。



構造タンパク質素材



構造タンパク質の製造



Message from Management

トップメッセージ

アフターコロナや
未来のニーズを見据え、
新たな長期ビジョンの
課題解決に邁進します。

代表執行役社長 浅見 正男



荏原グループを代表して、この度の新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々、ご遺族の皆様にご哀悼の意を表すとともに、罹患されている方々や困難な状況におられる方々が一日も早く回復されますよう、心よりお祈り申し上げます。

第156期業績と中期経営計画 [E-Plan2022]の進捗について

当連結会計年度における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響による景気減速から先行き不透明な状況が続きました。日本経済においても設備投資は減少しており、厳しい状況が続きましたが、一方で公共投資は大規模自然災害からの復旧・復興対策などに向けて堅調に推移しました。

当社グループの主要市場である石油・ガス市場におい

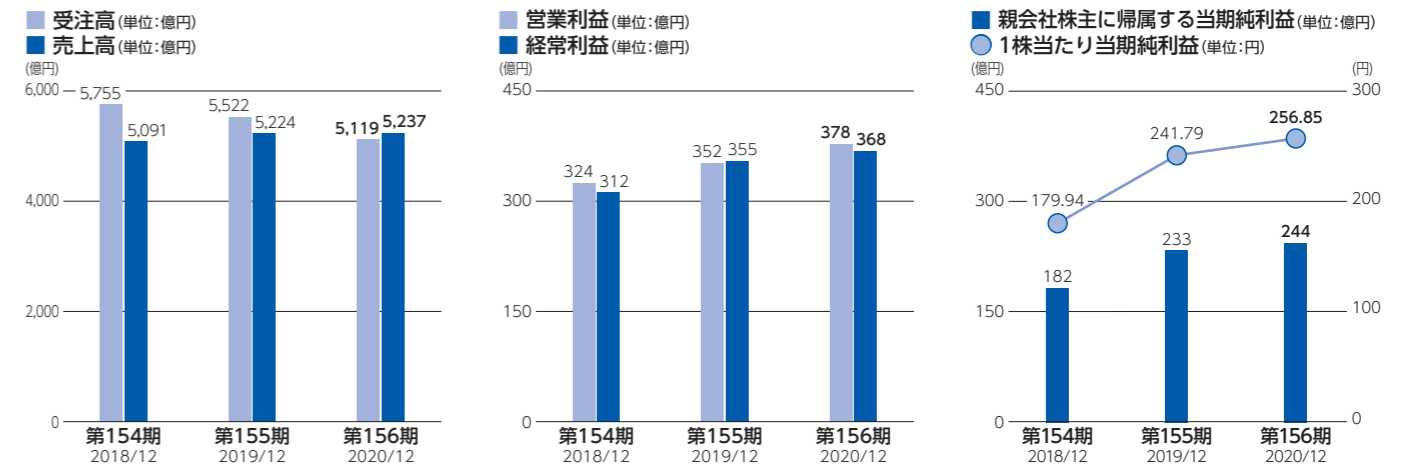
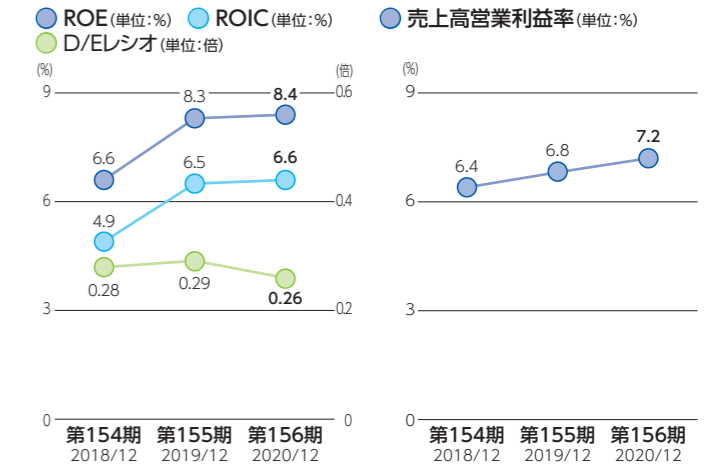
ては、新型コロナウイルス感染症の影響と原油価格下落の影響が続き、案件の遅延や延期の動きがありました。また、建築設備市場においても一部の国や地域によっては引き続き工事中断や遅延の動きがみられました。一方、半導体市場においては米中貿易摩擦の影響はあるものの半導体需要は底堅く、回復基調となりました。

このような環境下、当連結会計年度の受注高は、半導体需要の拡大により精密・電子事業で前期を大きく上回りました。新型コロナウイルス感染症からの影響を受けた風水力事業では、春先以降、一部の地域で回復はみられるものの、新規投資案件の延期や渡航制限などが依然として継続しており、前期を下回りました。また、環境プラント事業においては、投資案件の期ずれによる影響や公共向け大型投資案件を複数受注した前期と比べると受注水準は低く、全体でも前期を下回りました。

連結業績ハイライト

受注高	5,119億円	前期比	7.3%	↓
売上高	5,237億円	前期比	0.2%	↑
営業利益	378億円	前期比	7.3%	↑
経常利益	368億円	前期比	3.6%	↑
親会社株主に帰属する当期純利益	244億円	前期比	4.8%	↑
1株当たり当期純利益	256.85円	前期比	6.2%	↑
1株当たり年間配当金	90円	前期比	30円	↑

内訳 中間配当金：30円 期末配当金：60円



(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2018年3月30日)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号2018年3月30日)を当連結会計年度の期首から適用しています。

一方、売上高及び営業利益は、半導体需要の高まりや第2四半期以降の経済活動の再開、各事業における収益性の改善などにより増収増益となりました。

当連結会計年度における受注高は5,119億21百万円(前期比7.3%減)、売上高は5,237億27百万円(前期比0.2%増)、営業利益は378億79百万円(前期比7.3%増)、経常利益は368億59百万円(前期比3.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は244億73百万円(前期比4.8%増)となりました。

一部で新型コロナウイルス感染症による影響は見られるものの、収益性改善は順調に進んでおり、最重要指標であるROICは6.6%、売上高営業利益率は7.2%と前期を上回り、E-Plan2022の1年目は順調な進捗と捉えています。

株主還元について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を最も重要な経営方針の一つと位置付けており、株主還元につきましては、連結配当性向35%以上を目標に当該期の業績に連動させ、かつ連結自己資本配当率(DOE)2.0%以上を確保する方針としています。

この方針に基づき、第156期の期末配当につきましては、当初予想よりも30円増配し、1株当たり60円とさせていただきます。この結果、中間配当金30円と合わせ、第156期の年間配当金は1株当たり90円となりました。

なお、今期の配当予想についても、前期よりも10円増配の1株当たり100円を予定しています。

Segment Information

セグメント情報



風水力事業

売上高 **3,135億円**
前期比 3.0%減

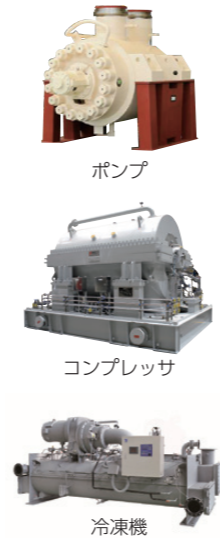
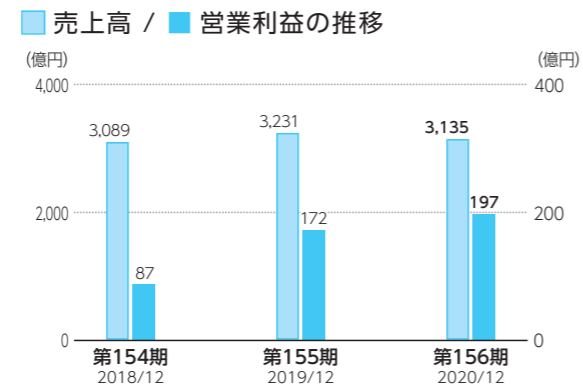
営業利益 **197億円**
前期比 14.6%増

主要製品

ポンプ、コンプレッサ、タービン、冷凍機、冷却塔、送風機

POINT

- 標準ポンプ事業は新型コロナウイルスの影響で減収減益(-)
- カスタムポンプ事業は国内公共案件向けが好調で増収増益(+)
- コンプレッサ・タービン事業は原油価格下落や新型コロナウイルスの影響で売上が減少(-)
- 冷熱事業は国内冷却塔事業における収益性改善や経費減少などにより増益(+)



● ポンプ事業におけるグローバル市場戦略の推進

ポンプ事業では、グローバル市場の戦略において、人口増加や経済、産業の発展など、成長が期待できる地域や国での売上拡大を目指しており、2020年5月、メキシコにポンプの組立・販売及びサービス&サポートを行うEbara Pumps Mexico, S.A. de C.V.を設立しました。また、ベトナムでは12月より標準ポンプの製品組立を行うノックダウンセンターが稼働し、グローバル生産体制・サプライチェーンの強化に取り組んでおります。更に、トルコの有力ポンプメーカーであるバンサン社の買収を進めており、深井戸ポンプ市場において世界トップシェアを目指すと共に、欧州、中央アジア、中東、アフリカ市場へのアクセスを強化してまいります。

今後も、当社の長期ビジョン[E-Vision2030]で掲げる目標「世界で6億人(世界人口の約7%)に水を届ける」の達成に向けて、ポンプ事業のグローバル市場展開を進めていきます。



ベトナムのノックダウンセンター外観



環境プラント事業

売上高 **675億円**
前期比 2.8%減

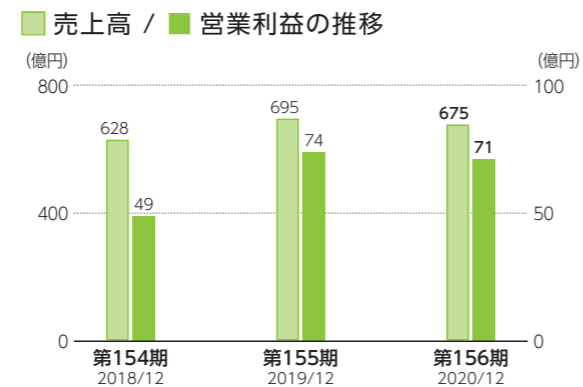
営業利益 **71億円**
前期比 4.5%減

主要製品

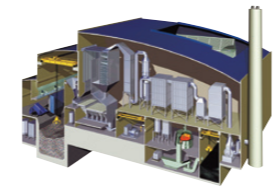
都市ごみ焼却プラント、産業廃棄物焼却プラント、バイオマス発電プラント

POINT

- プラントの設計・調達・建設を行うEPCの売上が、工事進捗の端境期となり減収減益(-)
- 長期包括運転・管理委託業務において原価低減施策などが順調に進み、収益性は改善(+)



廃棄物焼却プラント



ストーカ式焼却システム

● 小学生向け「ごみ発電の地産地消を学ぶ学習プログラム」出張講座の実施

環境プラント事業では、2020年11月に長野県飯田市内の小学校の児童に向けて「ごみ発電の地産地消を学ぶ学習プログラム」の出張講座を開催しました。

同校は、荏原環境プラントが施設運営を受託している南信州広域連合稲葉クリーンセンターと同地域にあります。稲葉クリーンセンターでは、施設で発電した電気を同社の新電力事業を通じて圏域内の小中学校等に供給するごみ発電の地産地消の取組みを行っています。

本講座は、南信州広域連合からのご依頼により行われたもので、児童たちが日頃から利用している電気の仕組みについてゲームを用いて体験することで、ごみ分別の大切さや電気を大事に使う事を学ぶ体験型のプログラムとなっています。今後も、地域のニーズに応じた環境啓発活動の提供を通じて、循環型社会の実現を目指す地域の取組みを支えていきます。



授業の様子
※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行い実施しております。



精密・電子事業

売上高 **1,411億円**
前期比 10.0%増

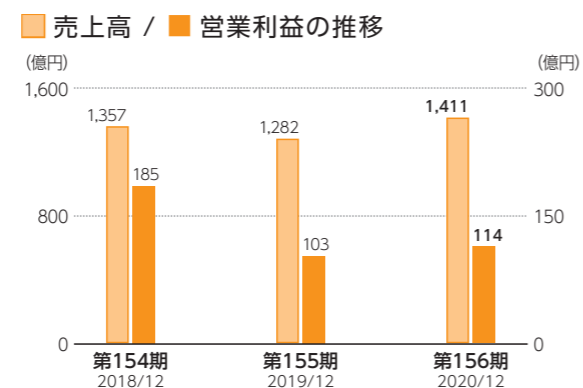
営業利益 **114億円**
前期比 10.4%増

主要製品

真空ポンプ、CMP装置、めっき装置、排ガス処理装置

POINT

- 需要拡大に伴うCMP装置の売上が増加(+)
- サービス&サポートの部品やオーバーホールなどの売上が増加(+)
- 売上増加に伴い営業利益も増加(+)
- ドライ真空ポンプの自動化工場関連の固定費が増加(-)



CMP装置



ドライ真空ポンプ



めっき装置

● ドライ真空ポンプのオーバーホール工場を竣工します

精密・電子事業の海外グループ会社であるEBARA Precision Machinery Europe(本社:ドイツ、以下:EPME)では、ドレスデン(ドイツ)のヴァイックドルフに、EPMEにとって2番目となるドライ真空ポンプのオーバーホール工場が2021年4月に竣工します。

今後、ICAC5(IoT、クラウド、AI、車の自動運転、5G)が実現していく新しい世界では半導体の需要はますます伸びていきます。そのため、旺盛な半導体需要に応えるために開発からサービス&サポートまでプロダクトライフサイクルにわたる貢献が必要になります。

新しいオーバーホール工場の設置によって、長期ビジョン[E-Vision2030]で掲げる社会のスマート化を支える半導体製品の進化に、製造装置、機器のサービス&サポートで貢献していきます。



ドライ真空ポンプのオーバーホール工場

Global View

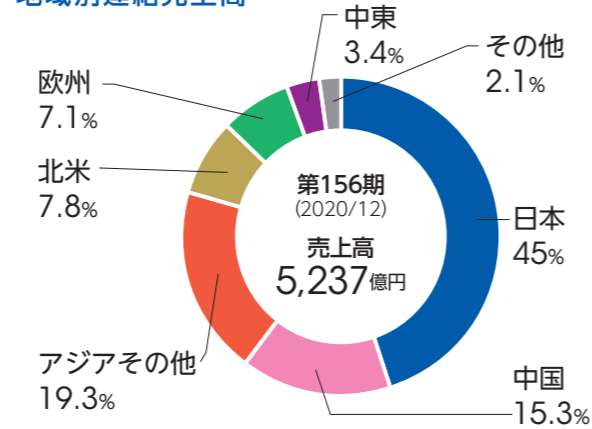
海外展開 (2020年12月31日現在)

国内・海外の関係会社数

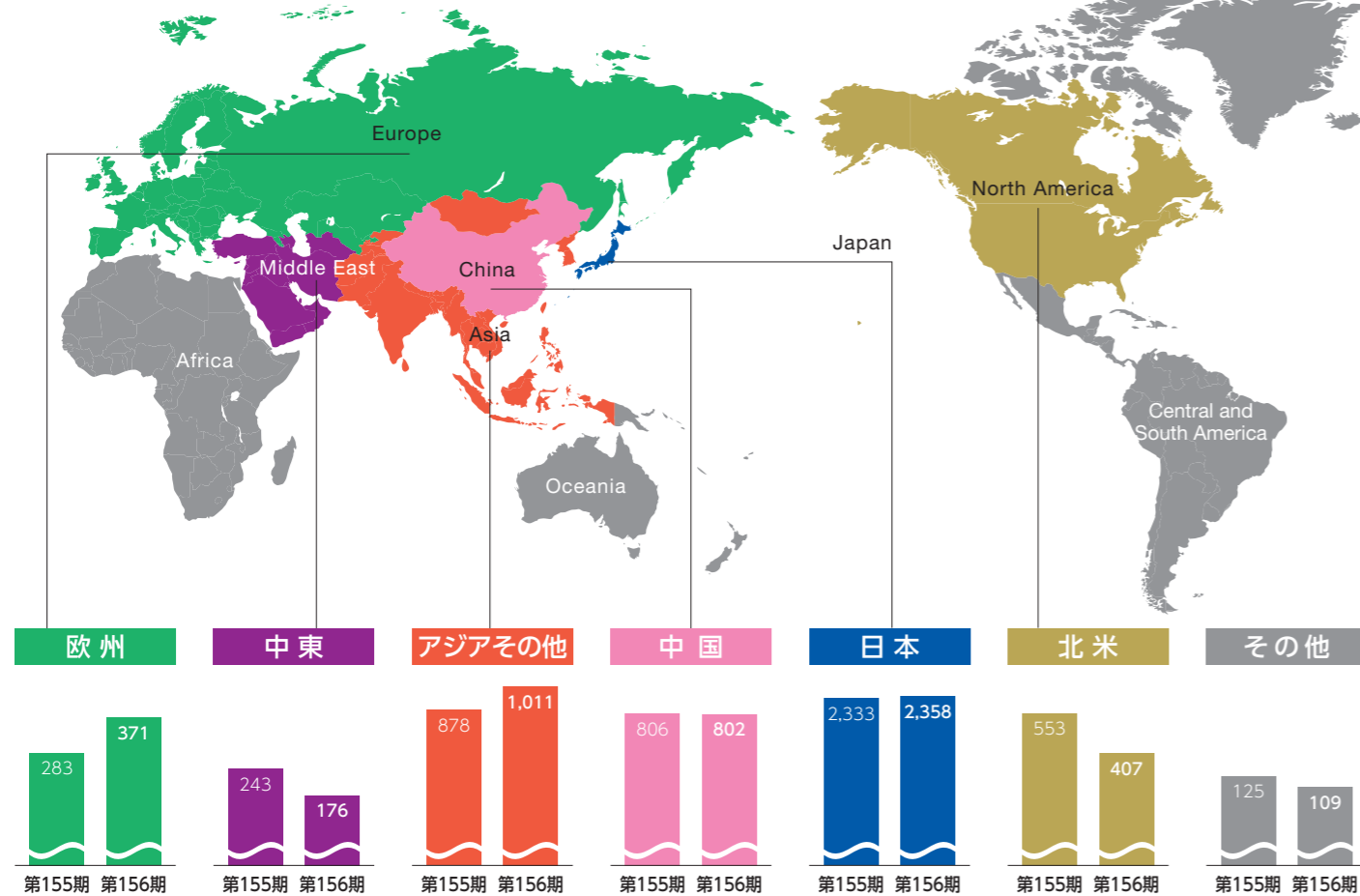
100社

海外	
関係会社	61社
● 中国 12社	● 欧州 9社
● アジアその他 19社	● 中東 4社
● 北米 6社	● その他 11社
国内	
関係会社	39社

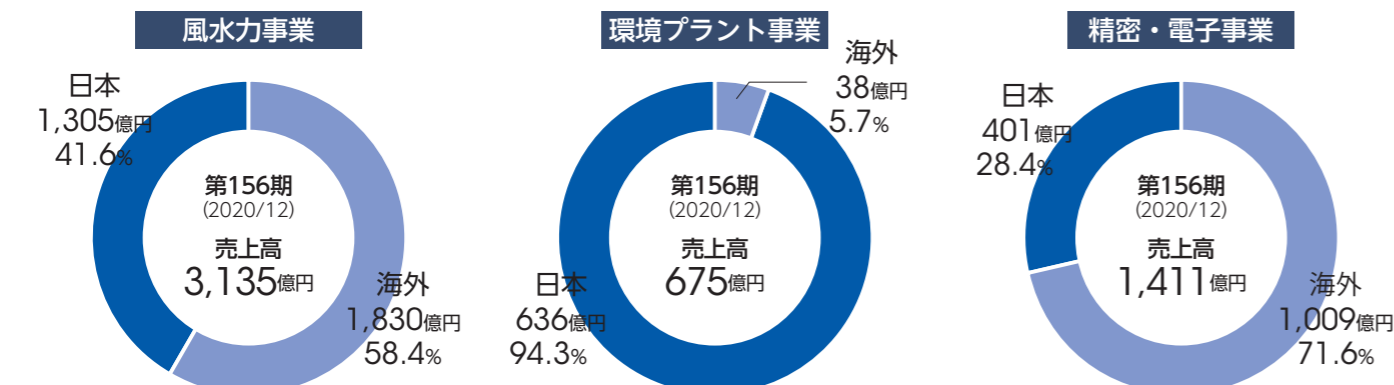
地域別連結売上高



地域別売上高の推移 (単位: 億円)



事業別海外売上高比率



Topical News

トピックス

荏原グループの動き (2020年7月 → 2020年12月)

7 JUL

- 羽田イノベーションシティにポンプなどを納入
- リアルテックグローバルファンドに5億円出資
- 新規事業アイデア公募「E-Start2020」表彰式開催
- 南アジア科技股份有限公司から2020 Nanya Outstanding FE Tool Supplier Award を初受賞
- EBARA Bombas America do Sul Ltda.が約50年ぶりにブラジル国内でカスタムポンプを受注
- ESG投資のための指数「FTSE4Good Index Series」 「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に継続採用
- 独立行政法人水資源機構より理事長表彰を受賞



8 AUG

- ベトナムにディストリビューションセンター設置
- EBARA Pumps Europeがセットメーカー向け販売を強化



2020 Nanya Outstanding FE Tool Supplier Award トロフィー

9 SEP

- メキシコに新会社「Ebara Pumps Mexico, S.A. de C.V.」を設立
- 「サイエンスキャスル2020」荏原製作所賞 採択チーム決定
- 熊本事業所の社員食堂が「第4回 健康な食事・食環境」の認証を取得
- 「SUSTAINA ESG AWARDS 2020」総合部門でシルバークラスを受賞
- 第18回高校生・高専生科学技術チャレンジ(JSEC2020)に協力
- ブラジルで初めてソーラーポンプの販売を開始
- 荏原環境プラント・宇部興産による日揮グローバルとのEUPライセンス実施許諾権契約締結



SUSTAINA ESG AWARDS 2020

10 OCT

- 初の新卒10月入社を実施
- 長野県内最大級、14.5MW ソヤノウッドパワー株式会社向け木質バイオマス発電所運営開始
- 青島荏原環境設備が中国にて都市ごみ焼却炉を7件連続で受注
- 青島荏原環境設備が中国向けに都市ごみ大型焼却炉を納入
- おおた研究・開発フェアに初出展



ソヤノウッドパワー株式会社向け木質バイオマス発電所

11 NOV

- 第23回インターフェックスWeek東京に出展
- 長野県飯田市小学生向け「ごみ発電の地産地消を学ぶ学習プログラム」出張体験講座の実施

12 DEC

- 東北農政局 須川地区第1揚水機場(岩手県)の設備改修工事を受注
- SEMICON Japan Virtual に出展
- ベトナムでロックダウンセンター稼働
- トルコのポンプメーカー パンサン社の買収を発表
- 荏原風力機械と鈴鹿高専が共同で実施した風神雷神プロジェクトの試験用配管のオブジェが完成
- 長野県北佐久郡環境施設組合佐久平クリーンセンター 運営事業を開始
- 青島荏原環境設備が台湾向け都市ごみ焼却炉を受注
- 「第1回 CCI東京 女性技術者活躍大賞」を受賞



風神雷神プロジェクト除幕式の様子

IRカレンダー



地域・社会とのコミュニケーション

「次世代を担う子供たちの挑戦」を応援しています

当社は、外部団体や企業が主催するイベントなどへの参加や協賛を通じて、次世代を担う人材の育成をサポートしています。2020年は、株式会社リパネスが運営する中高生を対象とした研究助成プログラム「サイエンスキャッスル研究費」の趣旨に賛同し「荏原製作所賞」を設け、研究に励む中高生に対する支援を行いました。当社が掲げた研究テーマ「『流れ』を使って未来を作る研究」には約30件の応募の中から4チームが採択されました。各チームには研究資金の助成だけでなく、当社とリパネスの研究者による研究サポートがありました。各チームは、12月20日に開催された学会「サイエンスキャッスル2020関東大会」で、以下の研究について成果発表を行いました。自ら社会課題を見つけ、解決するための研究を進めた各チームの発表は素晴らしいものでした。福岡工業大学附属城東高等学校は、「東京都市大学賞」を受賞しました。



サイエンスキャッスル2020関東大会



研究に取り組む学生のみなさん

サイエンスキャッスル研究費 荏原製作所賞 採択校と研究テーマ

福岡工業大学附属城東高等学校	ユーグレナとアサリを用いた廃醤油の新たな処理法
福島成蹊高等学校	Ba浸漬によるSr ²⁺ 吸収の効果と攪拌によるSr ²⁺ 吸収量の比較 ～ミカヅキモによる ⁹⁰ Sr ²⁺ の回収を目指して～
和歌山工業高等専門学校	アジが誤食した海洋プラスチックの年代測定から考える プラスチックゴミの漂流期間
鳥取県立鳥取西高等学校	校地内の自然エネルギーを利用した空調システムの開発 ～SDGsを意識したものづくり～

羽田事務所の防災備蓄品を子ども食堂や社会福祉協議会に寄付

当社の羽田事務所は2020年9月に防災備蓄品を更新し、約2,000個(18,000食分)を一般社団法人 日本非常食推進機構を通じて全国の子ども食堂、社会福祉協議会、フードバンクへ寄付しました。防災備蓄品を寄付することにより、フードロス削減につなげたいとの思いから今回の寄付に至りました。今後も備蓄品の更新時には有効に活用していきます。

https://www.ebara.co.jp/about/corporate/news_media/news/details/1242201_2595.html



羽田事務所より搬出



ほしくま児童家庭支援センター



社会福祉法人伊達市社会福祉協議会

東京都一斉帰宅抑制推進モデル企業に認定

当社は、東京都が実施する「令和2年度東京都一斉帰宅抑制推進モデル企業」に認定されました。主要拠点に衛星電話を配備して本部との通信を確保し、事業継続体制の強化を図っている点などが評価されました。

具体的な活動としては、定期的な防災訓練、安否確認訓練、食料備蓄等のほか、首都直下型地震発生を想定した大阪支社(大阪府)から本社(東京都)の災害対策本部をバックアップする訓練も実施しています。



投資家とのコミュニケーション

第2回ESG説明会を開催しました

2020年10月26日、機関投資家・証券アナリストの方を対象としたESG説明会をWeb会議形式にて開催し、59名の方にご参加いただきました。

本説明会は、荏原グループのESG(環境・社会・ガバナンス)経営についてご理解いただき、投資家の皆様との対話を深めていくために開催しています。第2回目となる今回は、代表執行役社長の浅見が「E-Vision2030とESG経営」について、社外取締役 取締役会議長の宇田が「ガバナンス」についてプレゼンテーションを行い、投資家の皆様からの質問に回答いたしました。

当社では、今後もESG経営を推進するとともに、ESG説明会を継続的に開催していきます。

開催日	2020年10月26日
当社出席者	取締役 代表執行役社長 浅見 正男 社外取締役 取締役会議長 宇田 左近 執行役 グループ経営戦略・人事統括部長 永田 修
概要	1. E-Vision2030とESG経営 2. ガバナンス

説明会の様子を動画でご覧いただけます。

https://www.ebara.co.jp/about/ir/releases/details/1241453_3601.html

持続的に成長し、社会に貢献していくため「サステナビリティ委員会」に

■これまでの経緯

2005年	企業倫理委員会発足	コンプライアンスに違反しない企業づくり
2011年	CSR委員会に変更	社会的責任を果たすための取り組み推進
2020年	サステナビリティ委員会発足	持続可能な社会づくりに貢献する

■サステナビリティ委員会とは

長期的視点で世界・社会の課題を展望し、当社が貢献できることや事業環境変化への対応などを議論する

第1回：気候変動への対応(TCFD)の社会の趨勢と当社グループ事業の機会・リスク
第2回：「CO₂1億トン削減」「6億人に水を届ける」「14Aへの挑戦」に向けた戦略・取り組み、上記以外の成果目標

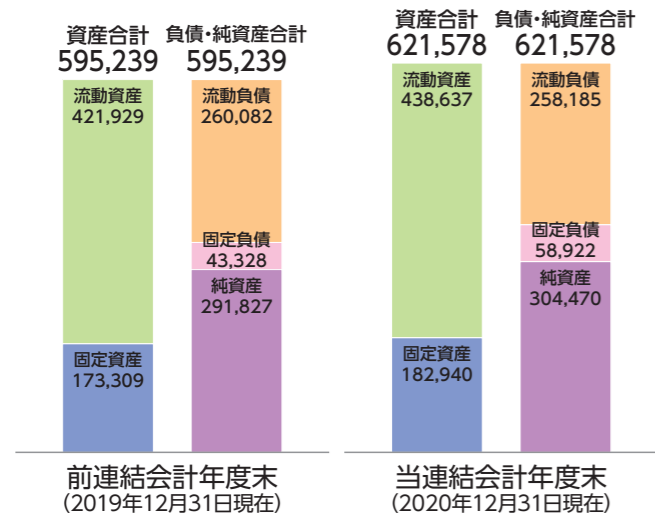
→重要課題解決に向けたKPI・目標設定、進捗モニタリング・報告を行っていく

Financial Information

財務情報 (2020年12月31日現在)

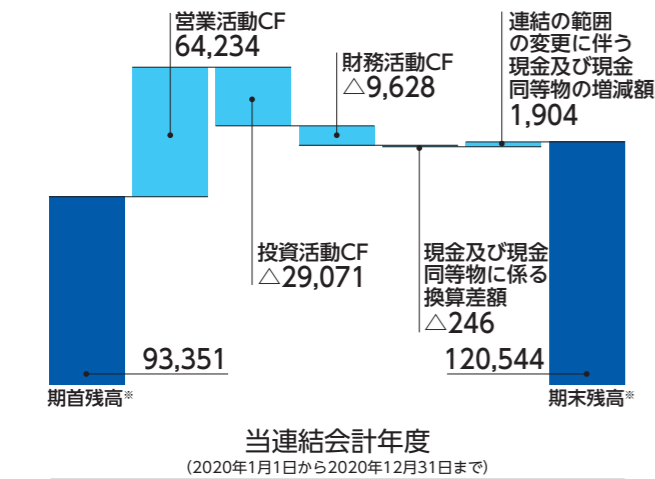
連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



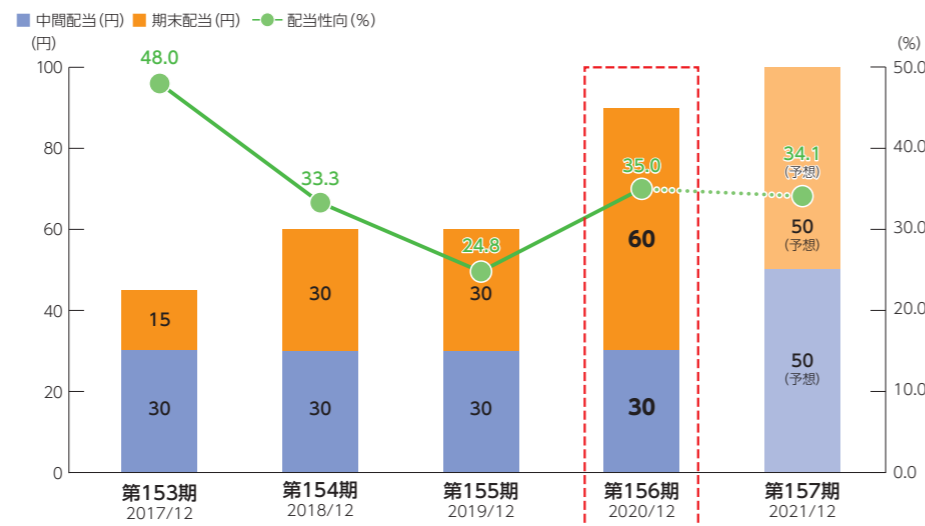
※「期首残高」及び「期末残高」は現金及び現金同等物の残高

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2018年3月30日)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号2018年3月30日)を当連結会計年度の期首から適用しています。

株主還元

当社は、株主の皆様に対する利益還元を最も重要な経営方針の一つとして位置付けており、連結配当性向35%以上を目標に当該期の業績に連動させ、かつ連結自己資本配当率(DOE)2.0%以上を確保する方針としています。

【ご参考】株主還元の推移



連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 2019年1月1日から 2019年12月31日まで	当連結会計年度 2020年1月1日から 2020年12月31日まで
売上高	522,424	523,727
売上原価	385,736	379,087
売上総利益	136,688	144,639
販売費及び一般管理費	101,389	106,760
営業利益	35,298	37,879
営業外収益	2,794	2,155
営業外費用	2,521	3,175
経常利益	35,571	36,859
特別利益	1,087	121
特別損失	1,473	934
税金等調整前当期純利益	35,184	36,045
法人税、住民税及び事業税	7,268	9,325
法人税等調整額	2,777	533
当期純利益	25,139	26,186
非支配株主に帰属する当期純利益	1,789	1,713
親会社株主に帰属する当期純利益	23,349	24,473

Corporate Information

企業情報 (2020年12月31日現在)

会社概要

商号 株式会社荏原製作所
 本社所在地 〒144-8510 東京都大田区羽田旭町11番1号
 電話 (03) 3743-6111 (ダイヤルイン代表)
 創業 1912年(大正元年)11月
 資本金 794億円
 従業員数 4,047名(連結17,480名)
 関係会社 子会社96社 関連会社4社

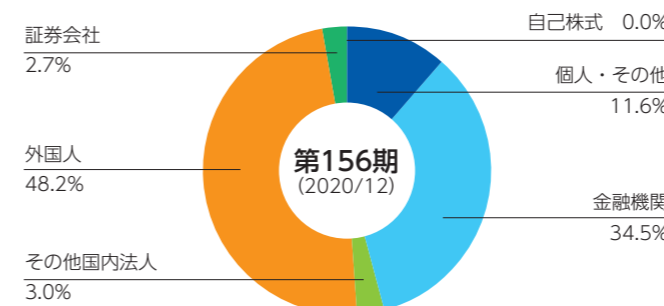
株式の状況

発行可能株式総数 200,000,000株
 発行済株式の総数 95,391,453株
 株主数 21,132名
 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,387	11.9
いちごトラスト・ピーティーイー・リミテッド	9,552	10.0
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	7,304	7.7
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042	3,932	4.1
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	2,314	2.4
BNYM AS AGT/CLTS 10 PERCENT	2,122	2.2
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,110	2.2
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	1,482	1.6
JP MORGAN CHASE BANK 385781	1,388	1.5
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS	1,335	1.4

(注) 持株比率は、自己株式(20,422株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



住所・氏名など届出事項の変更、配当金振込先の指定、買取・買増請求、マイナンバーのお届出等の各種お手続きについて	未受領の配当金のご照会・受取について
<ul style="list-style-type: none"> ●証券会社の口座を開設されている株主様 お取引のある証券会社へお申し出ください。 ●特別口座に当社の株式が記録されている株主様 当社の特別口座管理機関である三井住友信託銀行へお問い合わせください。 	三井住友信託銀行へお問い合わせください。 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-782-031 (フリーダイヤル)

※特別口座に株式が記録されている株主様は、証券会社に口座を開設し口座振替のお手続きをご検討くださいますようお願いいたします。(特別口座とは、株券電子化に移行されるまでに株式会社証券保管振替機構(ほふり)に株券を預託されなかった株主様の権利を保護するために当社が開設した口座です。)

役員

取締役	執行役
取締役会長 前田 東一	代表執行役社長 浅見 正男
取締役 浅見 正男*	執行役 野路 伸治
社外取締役 宇田 左近	執行役 沖山 喜明
社外取締役 澤部 肇	執行役 山田 秀喜
社外取締役 大枝 宏之	執行役 喜田 明裕
社外取締役 橋本 正博	執行役 マイケル・ローダイ
社外取締役 西山 潤子	執行役 大井 敦夫
社外取締役 藤本 美枝	執行役 戸川 哲二
社外取締役 北山 久恵	執行役 勝岡 誠司
取締役 長峰 明彦	執行役 永田 修
※は執行役兼務	執行役 中山 亨
	執行役 細田 修吾
	執行役 小和瀬浩之
	執行役 曾布川 拓司

株式事務

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月に開催
基準日	12月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告いたします。
配当金受領 株主確定日	12月31日 中間配当を実施するときの株主確定日は6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告 https://www.ebara.co.jp ただし電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
証券コード	6361
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部

WEBサイト メディア掲載のご案内

記事掲載



量産ポンプ、海外売上高3倍に

日経産業新聞に掲載されました。執行役の野路が風水力事業について海外事業や今後の展望について取材を受けました。

[量産ポンプ、海外売上高3倍に](#)



社長名鑑：株式会社 荏原製作所 代表執行役社長 浅見正男

ビジネスパーソン、就職活動中の方々に向けたwebメディア「社長名鑑」に社長の浅見が掲載されました。インタビューを通じて、荏原の事業内容、経営戦略、自身の体験に基づく価値観や信条をお話しています。

当社のWEBサイトで、メディア掲載記事をご覧いただけます。社長の浅見やカンパニープレジデントらの取材記事を、ぜひご覧ください。



https://www.ebara.co.jp/about/corporate/news_media/multimedia/index.html

主な掲載記事

日本経済新聞	2020年6月9日、16日	「私の課長時代」上・下 (代表執行役社長 浅見)
週刊東洋経済	2020年8月31日	「Business Aspect 108年続く社会貢献 巨大ポンプに込められた熱と誠」 (代表執行役社長 浅見)
日経産業新聞	2020年9月11日	「旬材逸材」 (マーケティング統括部長 南部)
日本経済新聞	2020年10月23日	「記者の目 荏原、成長のカベに挑む 原動力は利益の質2倍」
ウェストマネジメント	2020年11月25日	「荏原環境プラントが施工 桑名広域清掃事業組合可燃ごみ処理施設」
電子デバイス産業新聞	2020年12月10日	「20年度は売上高過去最高益を見込む」 (執行役 精密・電子事業カンパニープレジデント 戸川)
日経産業新聞	2021年1月19日	「量産ポンプ、海外売上高3倍に」 (執行役 風水力機械カンパニープレジデント 野路)

ソーシャルメディア公式アカウント／発行物のご案内



Twitter

https://twitter.com/EBARA_OFFICIAL



統合報告書



株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様へ、当社グループが中長期にわたり企業価値を創造するプロセスなどを紹介しています。

<https://www.ebara.co.jp/about/ir/library/annual-report/index.html>



エバラ時報



当社の研究開発の成果や新製品・技術情報を発信する情報誌として、ステークホルダーの皆様へ、製品・技術・サービスを分かりやすく解説しています。

<https://www.ebara.co.jp/about/technologies/index.html>
エバラ時報HTMLメール配信登録アドレス
ebara-engreview@uh28.asp.cuenote.jp
登録をご希望の方は上記アドレスへ空メールを送信してください。



YouTube
The EBARA Channel

<https://www.youtube.com/channel/UC2khpzNTcFQXUj3AiuffUQ>



株式会社 荏原製作所

発行：経営企画部 IR・広報課
〒144-8510 東京都大田区羽田旭町11番1号
電話 (03) 3743-6111 (ダイヤルイン代表)

